

第9回次世代型太陽電池の導入拡大及び産業競争力強化に向けた官民協議会

○日時

令和7年5月7日（水）13:00～15:00

○場所

オンライン開催

○プログラム

1. 開会
2. 竹内真二経済産業大臣政務官 挨拶
3. 次世代型太陽電池に関わる動向について
 - ・ 事務局／環境省
4. 議論
5. ペロブスカイト太陽電池の事業化に向けた取組について
 - ・ 積水ソーラーフィルム株式会社／パナソニック ホールディングス株式会社
6. ペロブスカイト太陽電池の導入について
 - ・ 東京都／福島県／愛知県／福岡市／日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）
7. 議論
8. 閉会

○議事概要

1. 全体について

- ・ 第7次エネルギー基本計画のなかでもペロブスカイト太陽電池の導入目標等が明記され、大きな期待を寄せられている。着実にスピード感を持って実現に向けて展開していくことが非常に重要。
- ・ 国際競争力をいかに高めていくかという視点では、海外での需要創出は非常に重要であるほか、先駆的な企業の取組を国が支援することで標準化のピッチをあげることが重要。

2. 需要創出について

（自治体・公共部門における取組について）

- ・ 自治体における導入目標の設定や予算措置など、具体的な取組は非常に重要。
- ・ 2040年までの導入目標を達成するため、都市においてより積極的な目標設定が必要。都市以外への導入では、グリッドに依存しない地産地消モデルが必要。
- ・ 政府や自治体での率先導入については、全体のコストも見ながら国産製品を導入することは重要。
- ・ 学校などの体育館への設置が好事例となるのであれば、文部科学省等の巻き込みは非常に重要。
- ・ 供給側と需要側が足並みを揃えることが非常に重要。需要側と施工方法も調整しながら進めていけば、実効性が増すのではないかと。

(導入補助について)

- ・ 追加性の観点から適切に支援対象を絞り込む考えに賛同。事業者の体制も含めた信頼性や供給の安定性は、ライフサイクル全体での適切な管理や経済安全保障の観点からも重要。
- ・ 含有される重金属の適切な管理についても要件として入れて頂きたい。
- ・ 構造計算書上で耐荷重が確認できない施設への設置方法や耐荷重の取扱いについて、検討が必要。

(設置・施工ガイドラインについて)

- ・ これまで施工コストが高い点が課題であったが、ガイドラインを通じベストプラクティスを広げていく取組は、国内外へのペロブスカイト太陽電池の普及において大変重要。
- ・ 外壁への設置を検討する際には、意匠性への対応や影への対策についても、技術的な課題として取り組む必要がある。
- ・ ペロブスカイト太陽電池は多様な種類があり、ガイドライン作成時に適切な分類をお願いしたい。
- ・ 施工や交換、維持管理も含めた技術開発や、建物の維持管理サイクルにペロブスカイト太陽電池の交換も入れ込む視点が重要。
- ・ 公共施設への実装のため、非住宅への設置の技術基準での国土交通省官庁営繕部との連携は重要。

3. タンデム型太陽電池について

- ・ タンデム型については、日本の勝ち筋や今後の市場の広がりには慎重に見極めるべき。量だけではなく、付加価値の高い領域で勝てる戦略が必要ではないか。
- ・ ボトムセルとしてのシリコン太陽電池については、中長期的には調達先の多様化を含め、強靱なサプライチェーンの構築を検討してほしい。
- ・ 海外も非常に高い競争力をもつため、国内メーカーの大胆な投資を後押しするために国内需要を確保することが必要。ペロブスカイト／結晶シリコンのタンデム型では、腰を据えて研究開発に取り組むべき。
- ・ タンデム型も含めたペロブスカイト太陽電池の普及においては、コスト低減はもちろん、海外展開も見据え、システムとしてどのように販売するかという出口に応じた戦略が重要。
- ・ 研究開発のステージゲートにおいては、経営者のコミットメントをグリップしながら、営業につながる技術開発をお願いしたい。
- ・ 地上設置用途については、技術面での差別化が困難でコスト勝負。参入するのであれば、エネルギーセキュリティの観点も考える必要がある。
- ・ 屋根設置用途については、技術面で、ある程度差別化できる。屋根から参入し、十分なマーケットを確保出来れば一定程度の競争力を持つ価格を実現できるのではないか。

お問い合わせ先

経済産業省資源エネルギー庁

省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課

電話：03-3501-4031